

三鴨小だより

学校教育目標

やさしい子 かしい子 たくましい子

第7号

発行日 平成30年6月22日

発行者 三鴨小学校長 廣田 昌英

6月20日(水)のできごとです

まいりました

朝のみかもっ子タイムでは音読集会が行われ、この日は5年生が国語の教科書に載っている「あめ玉」という作品を発表しました。1個しかないあめ玉を2人の子どもが母親にねだり、その騒ぎで眠りを妨げられた侍が刀を抜いて母子に近づき、「あ、斬られちゃう！」と思いきや、あめ玉を真っ二つに.....というお話です。実は5年生の特訓の様子を一度見たことがあったんですが、全員によるソロパートの連続なんです。しかも真っ二つに割ったあめを子どもに手渡すときの「ほおら。」という短い侍の台詞まわしにもこだわる細かさ。まるで“劇団ひまわり”の練習風景のようでした。この日の発表では母子と侍の寸劇まで仕掛けられており、それは見事な発表でした。

そして発表の後は、他学年の子どもたちから感想が発表されました。驚いたのは最後の1年生の女の子の感想です。「みんな違ってみんないいと思いました。」これには、きっと本校職員の全員が度肝を抜かれたことでしょう！上級生もたじたじの1年生の感想発表で、この日の音読集会は締めくくられました。

読書月間なんです！

清掃をなくして昼休みを長くして、ふれあい読書を行いました。全学年を縦割りにしたふれあい班の中でペアを作り、お互いに読み聞かせを行う取り組みです。私は1年生と6年生のペアの様子を観察しました。まずは6年生からの読み聞かせ。1年生のためにと選んできた本を取り出し、1年生に絵がよく見えるように広げ、感情を込めて読んでいきます。1年生は食い入るように絵本を見ていました。いい風景ですね。でも、これはほかの小学校でもけっこう実施している取り組みです。本校のふれあい読書の特徴は、下級生も上級生に読み聞かせを行うところでしょう。さあ、いよいよ1年生の番です。その子は自分で選んできた本を取り出し、まるで教科書を正しい姿勢

で読むようにたどたどしく読み始めました。絵をよく見せてもらえない6年生は、1年生の横に寄り添うように絵本をのぞき込みます。それはまるで親子読書のよう。そしてじっと1年生の読み聞かせに聞き入り、最後に1年生に向かって「ありがとう」。そのときの1年生のなんとも照れくさそうな顔。とってもいいものを見せてもらいました。

さて保護者の皆さん。本校では家読(うちどく)を推奨しています。ぜひ、お子さまに読み聞かせをしてもらってください。ただし、余計な批評はなしですよ。静かに聞き入り、最後にニッコリ、「ありがとう」です。

私の立場は...？

水曜日は全学年そろって5時間授業、つまり、一斉下校です。子どもたちの昇降口はどれくらい混雑するのか、見に行ってきました。2つの昇降口をそれぞれ90人くらいの子どもたちが使用するのです。しかもその日は雨天。傘も手にしていたのでかなりの混雑を予想していました。ところが、各教室でそれぞれに微妙な時間差で「さようなら！」をしてから階段を降りて来るので、たいした混雑にはならないもんなんです。とても意外で、少し安心しました。

ところで、ある1年生が私に話しかけてきました。「校長先生、今日は全部食べたよ！」「.....給食のこと？」「そう。校長先生が大きくなれないって言うから、頑張って全部食べたんだよ！」そうなんです。私は小さな1年生をからかって、よく「いっぱい食べて早く大きくなれ！」って言うてるんです。なので、「偉いぞ！すぐに大きくなれるかもな！」とほめてあげました。ほめてあげたつもりだったんですが.....「そんなにすぐ大きくなるわけじゃないじゃん。校長先生、よく考えてから言ってよね！」と、たしなめられてしまいました。う～ん、なんかこのところ子どもたちに見下されてるような.....気のせいですよ？